

# 茨木地区 謹賀新年 保護司会だより



千提寺のキリシタン墓  
(千提寺106-1など)



新名神高速道路建設に伴う2011年からの発掘調査で千提寺地区の遺跡から長方形の土坑が発見された。近隣の多くの墓が座棺で方形または円形の土坑なのに対し、キリシタン墓は伸展葬が一般的であることから、長方形の土坑はキリシタン墓と考えられる。高山右近領となった忍頂寺五ヶ庄でキリスト教宣教が行われたのは1583～85年のわずか3年であるが、聖ザビエル像の発見にみられるようにこの地には深く信仰が根付いたことが伺える。新名神高速道路の完成により多くの遺跡はなくなったが、千提寺菱ヶ谷遺跡など近辺には未発見のキリシタン墓が残されている可能性がある。  
(文責: 畠山眞悟保護司 画像データ提供: 茨木市教育委員会)

## 年頭のご挨拶

茨木地区保護司会 会長 田畑 敬

皆さん明けましておめでとうございます。

去年は、大阪・関西万博が開催され、大阪は大変な賑わいとなりました。1970年に開催された万博の時から世の中がどう変わったかという、やはり、インターネットや、スマートフォンといった通信技術が進歩したことが一番に挙げられると思います。

犯罪に関しても、インターネットやスマートフォンがらみのものが劇的に増加し、ある意味、誰でも簡単に犯罪に関わってしまう時代となっています。実際少年院においても、いわゆる闇バイト感覚で、特殊詐欺にからむ受け子や出し子をやった子達が増えているようです。

オーストラリアでは、16歳以下のSNSの使用を禁止する法案が可決されました。しかし禁止をしても使いたくなるのが世の常で、要するに

使うか使わないかではなく、どのように使うかが問題となります。「天網恢恢疎にして漏らさず」という言葉がありますが、天の網は目が粗いかもしいませんが、悪人は誰一人として逃すことはないという意味です。私は小さい頃から親にこの言葉を耳にタコが出来るほど聞かれました。

我々保護司も、面接の際には、この言葉を対象者に伝え、真面目に誠実な毎日を送る事が、いかに良い人生になるかという事を話してほしいと思います。お説教するのではなく、「男はつらいよ」という映画の中の寅さんの「お天道様は見ているぜ」というセリフの様に、肩ひじ張らずフランクに、対象者と向き合えばいいのではないのでしょうか。

最後になりますが、今年も保護司会活動にご協力宜しくお願いいたします。



## 茨木市更生保護サポートセンター

電話 072-620-8310  
はんざいゼロ

非行・犯罪に関する相談をお聞きます。秘密は厳守します。  
来所の際は必ず電話予約をお願いします。

【開所時間と相談予約の受付時間】平日10時～16時(祝日と年末年始は除く)

【所在地】茨木市役所合同庁舎6階(茨木市東中条町2番13号)

予約をすれば夜間、土曜日、日曜日に相談することも可能です。

※平素は、保護観察対象者やその家族との面談、保護司の研修、更生保護関係団体相互の情報交換、会議などに使用されています。

## 茨木市更生保護サポートセンター 通信

### 研修に参加できなかったときは…

茨木地区保護司会は定例研修、自主研修、夏季一日研修等、年間8～10回の研修を実施しています。その内大阪保護観察所が行う定例研修は4回です。その時所用どうしても参加できない保護司が出てきます。従来は大阪保護観察所に各地の欠席者を集めて振替受講していましたが、それでも参加できないときがあります。

そこで今はサポートセンターの活用です。写真は5月の薬物事犯の研修を3人の保護司が補講を受けているところです。

日本更生保護協会配信のオンライン講演会も、サポートセンターで希望者が一緒に受講する機会を作っています。



### ★令和7年度上半期の利用状況★ (R7.4.1～R7.9.30)

保護観察官の定期駐在		7回
保護観察対象者との面談		84回
会 議	保護司会	7回
	更生保護女性会	19回
	茨木BBS会	14回
	更生保護推進協議会	1回
	更生保護協力雇用主会	5回
	その他	14回
市民からの相談		0回
保護司来所人数(延べ人数)		375人

開所日数	4月	5月	6月	合 計
	21日	20日	21日	
	7月	8月	9月	124日
	22日	20日	20日	

茨木地区 事件係属状況	保護観察 件数	生活環境調整件数	
		刑務所等	少年院
令和7年4月	38	44	8
令和7年5月	41	43	7
令和7年6月	42	42	7
令和7年7月	43	41	7
令和7年8月	43	40	8
令和7年9月	40	36	8

(各月末日現在)



新しい刑務所のかたちとして、官民共同の運営、開放的で受刑者は独歩も許され、ICTタグで位置を把握する他、社会復帰に向けての各種プログラムも準備されました。そのプログラムの一つ、プリズンサークル(回復共同体)の立ち上げから、現在もアド

### 新しい刑務所のかたちを聞く

猛暑が収まらぬ8月30日、令和7年度夏季一日研修会がローズワムにて実施されました。この夏の研修においては幅広い分野の、より専門的な話を聞く機会になればと考えています。

### 夏季一日研修を終えて



研修部 部長  
上沼 愛子

バイザーとして関わっておられる大阪大学大学院名誉教授の藤岡淳子先生に「新しい私たちの刑務所、プリズンサークルの目指すもの」と題して講演をしていただきました。

### プリズンサークル!?

プリズン(刑務所)サークルとは、サークルになったたくさん話す、聞くを前提に参加者は一人ひとり尊重され、上もなければ下もない、始まりもなければ終わりもない。クロストークといって会話のやり取りもする、対話サークルです。

これを進めるにあたり、まずコミュニケーションを作る、受刑者が共に暮らし対話を重ねること、そこで共感し合う経験が回復を促してくれる。仲間がいることが重要であり、ニューコミュニケーションで育ち直しが期待できるということ



す。特に自分の思いを出すことで、その時の自分の感情に気付き自分に向き合うことができる、そして他者に向けられる思いにも変化が生じてくるということでしょうか。

藤岡先生は臨床心理士であり、公認心理師でもあります。20年間矯正職員として、刑務所、少年院、鑑別所などに勤務され、多くの受刑者の矯正、更生に関わってこられた経験からプリズンサークルの立ち上げへの協力要請を受けられました。

全く新しい刑務所は運営に民間企業の技術や経営能力を活用するというものです。新しい試みに当初は戸惑いも多く、特に全国から集められた

先生は「それはダメでしょう、なんでやめないの?」と発することを「正しい病」と名付けていました。良いこと、悪いことは大抵の人はわかっています。それでも犯罪に向かつてしまったことは認められない悪いことです。私たちは更生保護に関わる者としては犯罪に至った思いや育ちの中

### 「それダメ」は「正しい病」!

刑務官、職員は受刑者同士は話をしてはならないなどの文化価値観を持っており、新しいかたちに馴染んでいくには時間がかかり、その間多くの退職者も出たそうです。プリズンサークルは皆で輪になって話すもので、未経験への挑戦でした。

多くの支援者はもちろん、サークルを卒業した人たちの協力もあり、地道な努力が重ね続けられています。またアメリカでの実証例もあるので、島根あさひの出所者の再犯率調査ではサークル参加者はそうでない受刑者の半分近くにとどまっており、その効果が認められています。

### 貴重な班別討論

熱心に受講した後は弁当ランチでした。午後からのグループ討論の班別に会食。会員同士の関わりを深め合う貴重な時間です。保護司活動の主は対象者との面接です。そこには守秘義務があります。会員同士であれば相談や時には愚痴も言えます。一人で抱え込むことのないように会員同士のつながりを大切にしていこう工夫も必要です。

毎回最後にリラクスタイムとして余興を楽しんでいます。今回はバンド演奏に合わせたの「歌声喫茶」でした。懐かしの昭和を堪能!声に出すことは何であれとても大切なことです。よく話し、よく聞く習慣を身につけたいものです。



## 第75回 社会を明るくする運動 市民大会

～ホゴちゃんフェスタ～



社明部 部長 岡村 節恵

茨木市では、7月19日(土)におにクル1階きたしんホールにて、誰でもが気軽に参加できることをコンセプトに企画されました。

吉本興業の社会を明るくする運動のPR大使の「span!」の進行により茨木市立東中学校吹奏楽部の演奏、社会を明るくする運動茨木市推進委員会の構成団体より、浪速少年院・茨木市人権啓発推進協議会・茨木BBS会・茨木市社会福祉協議会・茨木市人権擁護委員会による活動や取組みの発表がありホールには200名近くの皆様が楽しく聞いておられました。

また、オープンギャラリーでは、今年は6ブース、展示コーナーでは3団体の展示がありました。

会場は多くの参加者にて「社会を明るくする運動市民大会」を終えることができました。

今後も「社会を明るくする運動市民大会」を通じて犯罪や非行のない社会を理解して頂き運動へのご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。



### 社会を明るくする運動茨木市推進委員会事務局

令和8年1月17日(土)・18日(日)に、社会を明るくする運動茨木市推進委員会主催の「イオンモール茨木矯正展」を開催します。刑務所作業製品の展示や即売会を行うこのイベントは、「社会を明るくする運動」の一環として、犯罪のない明るい社会の実現と更生保護活動の啓発を目的としており、売上金の一部は刑務作業の原材料費や犯罪被害者支援団体の活動等の助成に充てられます。

今年度の矯正展では、昨年度に引き続き、刑務所作業製品に加え、浪速少年院による職業指導製品の展示・販売や、茨木BBS会によるお子さま向けの輪投げコーナーを企画しています。

また、今年度の矯正展のポスター・チラシのデザインは、浪速少年院のICT技術科の皆さんに制作を依頼しております。公民館や図書館等に掲示・配布を行いますので、ぜひご覧ください。

社会を明るくする運動茨木市推進委員会では、保護司会をはじめ、様々な市民団体の協力を得ながら、いばらき×立命館DAYへの出店や、市民大会の実施、駅構内での啓発ポスターの掲示等を行っています。矯正展をきっかけに「社会を明るくする運動」や更生保護活動に興味を持ていただければ幸いです。皆さまぜひお越しください。



昨年度の様子



矯正展でお買い上げいただいた各日先着500名様にオリジナルグッズ(メモ帳・クリアファイル)をプレゼントします!



特集

保護観察所が行う

地域援助について

——地域と協力して、息の長い支援を——

大阪保護観察所統括保護観察官  
中尾 和良氏

1 はじめに

以前保護観察や生活環境の調整を担当していた保護司や保護観察官に対して、元対象者から仕事や生活などの相談がなされたり、更生緊急保護の対象となる期間が経過した後も元対象者を雇用している協力雇用主等から保護観察官に対し、その者への生活面での指導などについて相談がなされるという事例は少なくありませんでした。保護司及び保護観察官は、従来、それらの相談に対して、可能な範囲で対応し、必要な助言等を行うなどしていました。

令和5年12月、更生保護法の一部改正に伴い、更生緊急保護の拡充、刑執行終了者等に対する援助、勾留中の被疑者等に対する生活環境の調整のほか、更生保護に関する地域援助に係る規定が設けられました。

保護観察期間が終了した後も、犯罪や非行をした人たちが社会の中で孤立しないよう、相談できる枠組みができ、元対象者が社会の一員として自立できるよう、保護観察所が息の長い支援を実施することにより、再犯防止を図ることを目的としています。

なお、保護司が、元対象者から担当終了後に相談を受け、助言や援助をした場合、

「地域相談・援助報告書」を保護観察所に提出していただくこととなりますが、保護観察所はこの報告書を、保護司からの地域援助に係る相談の受付として取り扱います。そして、その後は、保護観察所が主体となって地域援助を行うこととなります。

「元対象者」と記載しましたが、相談の相手方は、元対象者本人とは限りません。元対象者の家族の場合もありますし、全く新規に関わる相手方である場合もあり得ます。そのため、以後は、「支援対象者」という表現で統一します。

本稿では、「更生保護に関する地域援助」について紹介させていただきます。

2 地域援助に係る相談・地域援助の実施

(1) 地域援助に係る相談の相手方について

雇用している協力雇用主、⑤支援対象者に対して現に支援を行っている関係機関・団体等、⑥犯罪や非行に結び付くおそれのある問題を抱える者への対応等について、その家族や地域住民など、様々な相談の相手方が考えられます。

(2) 地域援助の実施

上記(1)の方々から相談がなされた場合、まずは、内容を丁寧に取り、必要な助言等を行うこととなります。最初に対応した保護司や保護観察官による助言等により、一定の解決が図られることもあり、相談内容が複雑で、継続的な支援が必要と考えられる場合、地域援助を受けることが支援対象者の意思に反しないことを確認します。

また、関係機関等と連携した支援を行うことが必要な場合には、関係機関との間で、支援対象者の個人情報共有することに同意することを確認します。

支援対象者への援助を行う際には、本人が支援を受けることを望んでいることが重要となります。

となります。

3 地域援助の具体的内容

地域援助については、大きく支援対象者に対する援助、支援機関等に対する援助及び一般の方からの相談等に対する援助が挙げられます。

(1) 支援対象者に対する援助

援助の種類については、一般的に①住居②就労③就学④医療⑤保健・福祉⑥依存症回復⑦その他などがあります。

ア 住居に関する相談

(相談) 住むところもお金もない。家を探したい。

(援助) 住み込み就労先について相談可能な関係機関について情報提供。

イ 薬物依存に関する相談

(相談) 仮釈放期間満了後も保護観察所で行う簡易薬物検出検査

(援助) を実施してほしい。本人が保護観察所に出席して、簡易薬物検出検査を実施。

(2) 支援機関等に対する援助

支援機関等に対する援助には、①支援対象者への対応に関する助言等、②研修、事例検討会、広報活動等への協力という大きく2つが挙げられます。

ア 高等学校からの相談

(相談) 在籍生徒の兄の家庭内での問題行動により、両親及び生徒が疲弊してしまっている。DV相談窓口について情報提供。

イ 関係機関からの支援対象者の処遇等に関する相談

(相談) 現に支援に携わっている関係機関から支援対象者のケースカンファレンスを開催するので、保護観察官に

(援助) 出席してほしい。関係機関が開催する支援対象者に係るケースカンファレンスに出席し、本人への対処法に関する助言、その他情報提供を行った。

(3) 一般の方からの相談に対する援助

一般の方からの相談内容は幅広く、保護観察所に対応できないものも少なくありません。内容を丁寧にお聞きし、可能な助言等を行っています。

ア 保護者からの子どもの問題行動等に関する相談

(相談) 十代の息子が事件を起こしてしまった。今後、どのような処分がなされるのか。

(援助) 担当者が警察の捜査、家庭裁判所の調査・審判等について説明し、情報提供を行った。

4 地域支援ネットワークの構築に向けた取組について

イ 地域住民からの相談

(相談) ある住民の態度が悪く近隣では悪い思いをしている。

(援助) トラブル等があれば、躊躇なく警察に相談するよう助言した。

支援対象者の抱える課題や悩みは多岐にわたります。支援対象者が地域において必要な支援を継続的に受けるためには、府又は市町村等の地域単位における更生保護関係団体や支援機関等との連携体制が構築されていることが重要です。そのため、先に紹介した支援対象者や支援機関等に対する援助のほか、支援体制構築自体も保護観察所の重要な業務となります。

保護観察所の業務とも関連の深い相手方としては、地方公共団体、保健・福祉機関、医療機関、居住支援法人、ダルク等の民間支援団体、更生保護施設などが挙げられます。

こうした関係機関・団体等は、支援対象者に対する援助を行うに当たって、重要な連携先となります。そのため、保護観察所では、様々な機会を通じて、地域における社会資源である関係機関・団体等の皆様に、地域援助に関する周知等を行わせていただいております。

5 おわりに

更生保護に関する地域援助が始まってから、令和7年12

月で2年が経過しますが、まだまだ手探りの状態というのが実際のところですが、関係機関・団体との連携に当たっては、お互いの役割などの違いにも思いを寄せ、まずは相手方の制度や立場を理解するよう努めなければならぬものと思っています。そして、個別具体的な事例の相談等に際しては、どこに難しさを感じているかを明確にしつつ、可能な範囲の情報提供により、相互理解につなげていきたいと思っています。

……………〈 地域の皆様へ 〉……………

犯罪・非行の地域相談窓口「りすたぽ」

リスタート  
一人ひとりの再出発をサポート

犯罪・非行の  
地域相談窓口  
りすたぽ



地域社会で生きづらさを抱えているご本人やそのご家族、支援者の方から、専門の職員が困りごと・悩みごとをお聴きし、相談内容に応じたアドバイスや、関係機関・団体等と連携して、必要な支援が受けられるよう調整いたします。

問い合わせ窓口 大阪保護観察所  
TEL 06-6949-6244



## 大阪更生保護大会

令和7年10月30日、南海浪切ホールにおいて、令和7年度大阪更生保護大会が開催され、茨木地区保護司会からも表彰をうける保護司等が参加しました。

記念講演では「アルコール依存症からの脱却」の演題で、株式会社山口達也の代表取締役である山口達也氏が登壇されました。ご自身の体験でアルコール依存症の怖さや、脱却するため周囲の方々に助けられていることを、熱く話されました。ご自身を病氣だと認め、華やかな



芸能人とは違う立場で全国を回り、アルコール依存症の周知活動をしていく姿に心を打たれました。

(広報部)

茨木地区からは次の方々が表彰されました。(敬称略)

- 法務大臣表彰  
植田 孝子 西浦 章雄  
福元 康行
- 全国保護司連盟理事長表彰  
片岡 和洋 諏訪 典子
- 全国保護司連盟理事長表彰  
(家族功労者)  
岸田 親三
- 近畿地方更生保護委員会委員長表彰  
桐島 康典 下田平裕司  
殿村 昌弘
- 近畿地方保護司連盟会長表彰  
敷知 龍一 佐々木大照
- 大阪保護観察所長表彰  
(保護司功労)  
安間 明頼 久保 博
- 大阪保護観察所長表彰  
(永年勤続)  
岡 玲 竹林 巧  
畠山 眞悟 吉田 孝
- 大阪保護観察所長感謝状  
上野 伴子(更生保護女性会)  
茨木地区更生保護女性会  
榎本宗太郎(BBS会)  
茨木BBS会
- 大阪保護司会連合会会長表彰  
加島 早織 中村 洋子

## 管外一日研修

秋のさわやかな天候に恵まれた11月4日に、保護司会23名、更生保護女性会7名の合計30名で、伊勢市にある宮川医療少年院に研修に行きました。



往路の車中では、白百合女子大学教授・副学長(ビデオ収録時)でもあり小児科医の宮本信也氏による「保護司のための発達障害の理解と対応」のビデオで学習しながら向かいました。

昼食を終えてから、伊勢神宮外宮近くにある宮川医療少年院に到着しました。

## 市長との意見交換会

11月17日(月)市役所にて福岡洋一市長はじめ関係部課長と懇談会が開かれました。保護司会からは、主に6点の提案・依頼を行いました。

### 案件

- 1「再犯防止推進に関する連携協定」について
- 2保護司の確保について
- 3茨木市事務局と保護司会の連携強化について
- 4保護司会の公民館、コミュニティセンターにおける免除団体申請について
- 5社明運動について
- 6農福連携と更生保護について



これらについて市側からは、各事項とも重要なことであるので、実施に向けて、しっかりと協議を重ねていきたいとの発言がありました。

(広報部)

その後、院内を視察しました。少年達の各部屋の開いている窓からは、勉強している姿が見え、目が合った瞬間「こんにちは」と大きな声で、笑顔で挨拶してくれて、こちらも「こんにちは」と返しました。何でもない「コマ」なのに、心が温かくなり感動しました。

帰りの車中では、ビンゴゲームで盛り上がり、親睦を深め、全員無事茨木に着くことができました。

心がほっこりした一日研修でした。

(厚生部 中村洋子)

## 保護司会 動静

受章お祝い申し上げます  
(敬称略)

藍綬褒章



吉田 博子

◎詳しい内容については次号でお知らせします。

法務大臣表彰



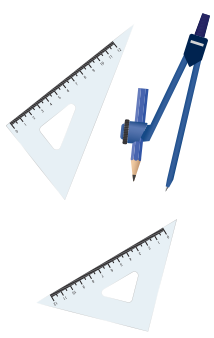
植田 孝子



西浦 章雄



福元 康行



令和七年春の藍綬褒章受章にあたり、辻道子保護司より寄稿をいただきました。

### ごあいさつ



辻 道子

令和七年春の褒章に際し、はからずも藍綬褒章受章の栄に浴しました。

五月十四日、法務省での伝達式で褒章を受け、続いて褒章を胸に皇居に参内いたしました。

春秋の間で陛下のお出ましの時を待ち、陛下から、温かい労いと励ましの言葉を賜り、真近にお顔を拝調した時は感激で胸がいっぱいでした。

保護司を拝命しました平成十年の頃は、中高生が荒れている時で、特に暴走族が活発に活動していました。三代目総長を受け持ちましたが、暴走行為のみ

ならず俗に言う「おやじ狩り」の路上強盗をして少年院送致になりました。少年院での規律正しい生活と食事のおかげで、痩せ細った身体が健康優良児になり、顔つきもおだやかに面会に行った時は思わず涙が出てしまいました。心に残る少年です。

いい思い出ばかりでなく、行方不明になった少年、私が味わった事のない環境や状況を知る時、この少年に幸せな心情を抱いてもらうにはどうすれば良かったのか、どうして心に寄り添う事が出来なかったのか今でも悔やまれます。

保護司としての二十八年は、尊敬すべき諸先輩や、すばらしい仲間にも恵まれたお陰で来年の定年迄つとめる事が出来ます。会計の任務中に胃ガンの手術をし岸田副会長に職務を任せて休養することが出来、又、副会長の任務中に脳梗塞になり任期を一年残して退かしていただく事になりました。保護司会の皆様

### 退任保護司

ご苦勞様でした

山野 右子氏

(平成九年九月二十五日、  
令和七年九月二十四日)

西田 照子氏

(平成十七年九月二十五日、  
令和七年九月二十四日)

玉川 美里氏

(令和五年九月二十五日、  
令和七年九月二十四日)

### 新任保護司です。

よろしく



中野 貴代美

令和七年九月二十五日付  
(豊川中学校区)

## 編集後記

- 広報の仕事は、発行すれば次の企画が始まるエンドレス。まだ時間あると思うべからず。(K.N)
- 今年度初めて広報誌編集に携わり、紙面作りの大変さを実感しました。広報部の皆さまお疲れさまでした。(S.M)
- サボセンや研修での先輩保護司との会話から、保護司としての工夫を学んでいます。(A.A)
- メ切がせまると、やっと頭がうごきはじめてバタバタ。(R.O)